

受原八幡神社の杉（庄原市指定）

所在地：庄原市東城町受原30

指定年月日：平成3年12月24日

所有者：受原・八幡神社

胸高幹囲：4.70m

樹高：約40m

本樹は、JR備後八幡駅南方の山の中腹にある受原八幡神社境内に所在する。

杉は、スギ科の常緑高木、日本特産で、秋田・吉野・屋久島などが有名な産地となっている。樹幹は楕円状円錐形、樹皮は赤褐色で縦に長く裂ける。葉は小さな針状で、やや湾曲し小枝にらせん状に密生する。

材は、建築・器具など用途が広い。葉は線香を作り、古来より樹皮は屋根を葺いていた。和名は「直木（すき）」で、すくすく立つ木の意からという。

本樹は、受原八幡神社のシンボリック的存在である。

